

はじめに

本書『認知言語学的発想！英日翻訳の技術』は、英日翻訳の基礎となる技術を身につけながら、言語と文化について理解を深めることができる翻訳の入門書です。

1990年代にコンピュータやインターネットが盛んになって国際間の情報のやり取りが一気に増え、それ以降翻訳の需要は増大し続けてきました。このため翻訳家も増えましたが、その反面、その質にはかなり改善の余地があるといわねばならないのが現況です。

翻訳は技術です。技術とは人間に生まれつき備わっているものではなく、その人自らの意志によって習得するものです。ところが勉強などしなくても英語と日本語の両方がわかってさえいれば翻訳できるとたかをくくっている人が意外に多く、こういう偽りのプロの翻訳したものが世に広く出まわっているのが現状です。偽りのプロの訳した文章は、原文を誤って解釈している箇所が多いのに加えて、日本語としても不自然でぎこちなく、代金を要求できるなどという代物ではありません。こうした偽りの翻訳を目にするたびにため息が出ます。

翻訳は「習得」するもの。「習得」のプロセスは、まず翻訳を勉強する必要性に目覚めることから始まります。知識の蓄積は、まず自分がいかに無知であるかに気づくことから始まるからです。自分が何でも知っているとと思ったら、進歩は望めません。

このテキストの新しい点は、次の3点です。まず、翻訳の意味と機能に集中していること。これまでの翻訳の教科書は、高校や大学受験の続きで、文法的な項目をどう訳すかを検討したものがほとんどでした。本書は、英語と日本語それぞれの発想を捉え、首をかしげるような日本語訳を、日本語らしい自然な訳に置きかえる技術を提供します。

第2に、学生からのQ&Aを取り入れ、わかりやすい説明を加えたこと。対話形式の質問と回答によって、高度な疑問も平易な語り口でわかりやすく頭に入ってきます。なお、協力してくれた石関東沙さん、田村颯登さんに感謝します。

第3に、このテキストは皆さんが翻訳を実際に行う、実践的な練習帳であることです。各章で学んだことは、練習、演習、課題の3つのステップで確かめるように構成されています。ひなが巣から飛び出し、大空を駆け巡るように、各章の技術を自分のものにしていてください。

タイトルの一部である「認知言語学的発想」は、spiralcricketの専門が認知言語学であることからつけました。本書の中には新しい言語学である認知言語学の発想が散りばめられており、翻訳を通じて認知言語学の発想を自然に学ぶことができるようになっていきます。コラムでは、翻訳の実践者を中心に各界から皆さんへ素敵なアドバイスをいただきました。

翻訳という仕事は決してやさしくはありません。短期間でマスターできるものでもありません。しかし、私達は翻訳を通して得るものも大きいと信じます。翻訳の勉強を通して、翻訳の奥深さに気づくだけでも大きな収穫だと思います。どんな勉強についてもいえることですが、短期間で大きな収穫を期待すると、後で意気消沈することになりかねません。うさぎ型よりかめ型、またはキリギリス型よりアリ型の姿勢で皆さんが翻訳に臨むことを期待しています。

本書は、関西大学のspiralcricketの授業の中で10年以上の蓄積を経て発展していますが、始まりは、マイケル・ブルックスがサンフランシスコの翻訳通訳エージェンシー Aisei Japanese Language Services で翻訳講座を開講しているところに、spiralcricketが講師になったことでした。同社のレガリア耀子社長に大変お世話になったことに対し、感謝の意を表したいと思います。



spiralcricket and Michael N. Brooks

March 15, 2020

目次

第1章	翻訳者になるために	7
第2章	優れた翻訳とは	17
	<i>South America holds rich rewards for intrepid travelers.</i>	
第3章	代名詞	33
	<i>I told him that!</i>	
第4章	数量詞	43
	<i>Some Chinese like sushi.</i>	
第5章	比較級と最上級	57
	<i>We need to have a deeper understanding of the issue.</i>	
第6章	無生物主語 I	71
	<i>Yesterday's hurricane killed 20 people.</i>	
第7章	無生物主語 II	85
	<i>The new technology enabled videoconferencing.</i>	
第8章	名詞句	93
	<i>The introduction of the new technology increased the output.</i>	
第9章	順行訳	103
	<i>The rocket will be traveling for six months before it reaches Mars.</i>	
第10章	話法	119
	<i>I asked Linda if she could come to the party.</i>	
第11章	レトリック	129
	<i>This relationship is foundering.</i>	
第12章	イディオム	143
	<i>Danny slept like a log.</i>	
第13章	肯定表現と否定表現	159
	<i>Stay seated on the toilet to activate the cleansing water.</i>	
第14章	「は」「が」構文	171
	<i>Annie has no worries.</i>	

第15章	まとめ 翻訳の深さ	183
	もっと勉強したい人のために	188

ワンポイント一覧

2章	ワンポイント① andによる3つ以上の並列	27
	ワンポイント② パラグラフについて	30
	ワンポイント③ willの訳し方	31
	ワンポイント④ asの訳し方	32
3章	ワンポイント① カンマについて(1)	40
	ワンポイント② イタリックの使い方	40
4章	ワンポイント① 品詞	52
	ワンポイント② カンマについて(2)	54
	ワンポイント③ someとothers	54
	ワンポイント④ 単位と換算(1)	55
5章	ワンポイント① alsoの意味	67
	ワンポイント② 挿入句の処理	67
6章	ワンポイント① 他動詞と自動詞	79
	ワンポイント② 単位と換算(2)	81
	ワンポイント③ 統語構造	83
7章	ワンポイント① 温度の換算	89
	ワンポイント② 語頭の大文字	91
9章	ワンポイント カテゴリーについて	118
11章	ワンポイント 認知メタファー理論	137

コラム

出版翻訳家になりたい人に（中井はるの／翻訳家・作家）	70
寄り添うことの大切さ（小宮由／翻訳家）	84
翻訳と通訳～規範性と可視性（水野的／元日本通訳翻訳学会会長）	102
果てしなき挑戦（飯田伴子／字幕翻訳家）	158



第 1 章

翻訳者になるために

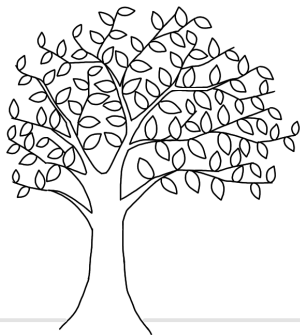
翻訳の世界には、大きく分けて出版翻訳と産業翻訳があります。

出版翻訳とは、その名の通り出版された本を訳すものです。小説などの文芸作品が主で、収入は売れた部数に対する印税です。したがって、翻訳者の収入もその本の売れ行きによって左右されます。仕事は版權を持つ出版社からもらうことが多く、コネがものをいう分野です。出版翻訳家は、かなりのコネがあるか、または名声を確立していないと仕事がなかなか入ってきません。

これに対して産業翻訳（別名ビジネス翻訳）には、刊行本に自分の名前が載るという出版翻訳の持つ華々しさはありませんが、需要も多く、印税収入と違って仕上げた量に対して一定の報酬があるため、出版翻訳より安定しているといえるでしょう。

出版翻訳と産業翻訳は本質的に異なった翻訳分野です。翻訳者の創造力が要求されるという点ではどちらも共通していますが、相違点はその創造力の使い方にあります。つまり、出版翻訳では原文の内容を正確に伝えるだけでなく、目標言語（翻訳後の言語）での表現のあや、芸術性といったものを出すために創造力を駆使します。読者を感動させるのが大きな目的です。これに対して産業翻訳で要求される創造力とは芸術性ではなく、原文が伝えようとしている事実や見解を、正確に、簡潔に、また「自然な」ことばで訳す力です。ですから産業翻訳はコミュニケーションに重点を置く分野であるといえます。本書では文芸関係の文例も多少取り扱いますが、主に産業関係の様々な文書を翻訳の対象とします。

出版翻訳と産業翻訳以外に、コピーライティングという分野があります。これは製品の広告・宣伝用の文句を創り出す仕事で、ある言語から別の言語に「翻訳」する場合もあります。ところが、宣伝文句というのは、たとえば



第 2 章

優れた翻訳とは

South America holds rich rewards for intrepid travelers.

× 南米は勇敢な旅行者のために豊かなほうびを持っている。

○ 勇気を出して南米を冒険すれば、その醍醐味を味わうことができる。

○ 南米は冒険の宝庫！

どのような翻訳が優れた翻訳といえるのでしょうか。また、翻訳の際はどのようなことに気をつけなければならないのでしょうか。まず、翻訳の例をいくつか見てみましょう。なお、○がついているのは推奨される翻訳、×がついているのはよくない翻訳、△はその中間です。また、何もついていないのは普通の、問題のない訳です。

Put your name on the document.

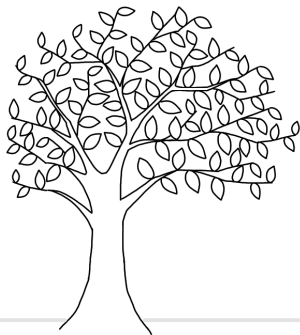
書類に署名してください。

ここでは、put your name という 3 つの単語からなる句が、「署名する」という 1 語になっています。

Saipan looks like a land of milk and honey.

サイパンは楽園のようだ。

a land of milk and honey という表現の出典は聖書です。旧約聖書「出エジプト記」3 章 8 節にある、神がモーゼに伝えたことばで、神がイスラエル人



第3章

代名詞

I told him that!

×私は彼にそれと言った

○あいつにそうやってやったんだ

人称代名詞 you を「あなた」、he/she/they をそれぞれ「彼、彼女、彼ら」と機械的に訳すのは、やむを得ない場合を除いてやめましょう。「えっ、どうして?」と思ったらよく考えてみてください。たとえば、日本人同士で「あなた」と呼ぶ場面はいったいどんな情景ですか。妻が夫を呼ぶ場合ならいいのですが、ビジネスミーティングの場合、子供同士の場合、先生と生徒の場合などは、いずれも「あなた」は使わないことがわかります。

代名詞の一般テクニック 代名詞はできるだけ隠す

会話分析という研究分野では、日本語における一人称（「私」など）は、9割が省略されるというデータもあります。また、日本語において、一人称が、「私」「俺」「あたし」「僕」「うち」「わたくし」「拙者」「自分」「ワイ」など、多数の形を持つことは、よく知られています（金水敏 2003『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』）。「私」は不必要に使わないように、また、一人称を使う際も、「私」より適切な形がないか、よく検討しましょう。